

design

福定 良佑さん

(「Muffin」プロダクトデザイナー)



スツールに遊び心、より身近に

東京・豊洲のアーバンドックららぽーと豊洲にあるインテリア店「リビングハウス」に1月から、何ともかわいげなスツールが並んでいる。名前は「Muffin (マフィン)」。文字通り、あのカップケーキを思わせる。ポリウレタンを回転する金型に流し込み、遠心力を使って成型し、カップケーキを包むグラシン紙の波形の円すいのような形状を見事に再現。底を上にとするとテーブルに早変わりするが、回転金型のおかげで表面にはまったく線などが入っておらず、丸みを帯びた面持ちがまたカップケーキそのものだ。

これはイタリアのインテリアメーカー、ボナルド社の商品で、福定良佑がデザインした。リビングハウス社長の北村甲介は昨年のイタリア・ミラノで開かれたミラノサローネ国際家具見本市で「置くだけで部屋のイメージがガラッと変わりそう」とひと目で気に入るすぐに買い付けた。商品が店に届いてから、福定がデザインしたことを知り、驚いたという。「この遊び心は当然イタリア人だと思った」。福定も「無難なインテリアが好まれる日本でまさか販売されるとは思っていなかった」と笑う。

ふくさだ・りょうすけ 1979年大阪生まれ。金沢美術工芸大学でプロダクトデザインを学び、02年シャープに入社。携帯電話などのデザインに携わり、デザイナーとしてのスキルを

より磨こうと07年に退社しイタリアのデザイン学校に留学。卒業後ミラノのデザインスタジオで4年間働き、12年から京都に自身のデザインスタジオを構え、日本を拠点に活動する。

自由なスタイル、ミラノ流

ボナルド社から小ぶりのスツールのデザインを依頼されたとき、福定はイタリア人の友人からもらったマフィンのパッケージを思い出した。「パッケージは役目が終わるとすぐに捨てられてしまうが、よくよく見ると美しい形状のものが多く、それをモチーフにした家具なら、より身近な存在になると感じた」

日本の家電メーカーで働いていたときは、生真面目なデザインになりがちだった。イタリアに留学し、卒業後そのままミラノのデザインスタジオで働くうちに自由なスタイルに変わってきたという。Muffinと同時にボナルド社から発売されたコートハンガー「Kadou (カドウ)」は、いけばなをテーマにしているが、こちらもどこか外国人が日本に憧れてデザインしたようなバタ臭さを感じさせる。

—敬称略
(ライター 佐藤俊郎)